

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900526		
法人名	株式会社いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館霞ヶ浦1号棟		
所在地	茨城県かすみがうら市宍倉5200-38		
自己評価作成日	平成24年5月31日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokuhou.jp/kaisoip/infomationPublic.do?JCD=0873900526&SCP=320&PCD=08
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成24年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が生きがいを持って生活が送れるよう館内外での余暇活動に力を入れ職員と共に畑での作物作りやおやつ作りをとうし楽しみを持った生活がお送り頂けるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームからの視界を遮るものがなく、広々とした環境に立地している。敷地内の庭には散歩コースや東屋があり、地域の人に開放され交流の場にもなっている。花畑もあり、水やりやきれいに咲いた花を觀賞し楽しんでいる。職員は、明るく前向きな姿勢で取り組んでいる。外部評価に関しても、新たな気付きがあり客観的に見る事ができたと語り、やっていることをそのまま外からの目で見てもらう事がいい事であり、次のステップにつなげていきたいと話していた。年1回の一泊旅行も職員が緻密な準備を重ねて実行されている事であり、今後も継続していきたいと語っていた。画一的なサービスではなく、一人ひとりの個性に合わせた対応がされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践につなげ地域との交流を深めています。又、ユニット独自の理念も掲げています。	ユニット独自の理念をスタッフと一緒に作りあげた。朝礼、夕礼時に唱和しながら、一つ一つ職員の頭の中に入れ、ケアの中で実践できるようにしている。実際のケアの場面でも伝え、確認し合っている。職員は当たり前のこととして、明るく元気に頼られる存在になれるように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	館でのイベントに地域の方々を招待したり地域のイベントへも参加しています。又、運営推進会議を通し利用者様とご家族様と地域の方との交流を深めています。	3館合同の夏まつりを土・日曜日を利用して家族も参加して行っている。小学校の校庭を駐車場として借り、地域住民も自由に参加できる体制を作っている。また、運営推進会議を通して理解を深め、避難訓練の案内と参加の呼びかけも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ働きかける機会として地域運例推進会議を2ヶ月に1回開催しています。また、施設見学の受け入れを行い学生の職場体験の場としても受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い地域役所の福祉関係者、地区長、民生員、利用者含む家族の方に参加して頂き、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族からスタッフの異動に関して意見があり、考えなくてはいけないかなと感じている。行事予定、研修報告、ヒヤリハットの報告が主な内容。家族、利用者、民生委員、区長、看護師、事業所関係者のメンバーで、2ヶ月に1回開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築けるよう取り組んでいる。職場体験、施設見学等の受け入れを行っている。	運営推進会議への出席、生保のケースワーカーとの関わりを密にしている。養成講座生の実習の受け入れを行っている。現在小学校との交流はないので、今後夏まつりの駐車場を借りるの願いと共に、交流の受け入れを話していく予定。職員の託児所との交流はある。	

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りをこまめに行い、身体拘束をしないケアを全スタッフ理解し徹底して取り組んでいる。	拘束に関して朝礼、夕礼、ミーティングでの話し合いや、マニュアルを作成して新人研修の中でも伝えている。疑問に思う時はその都度話すようにしている。ベッドの二点柵について話し合い、布団での対応にしたり状況に合わせた対応を考えている。状況はこまめにかわるので、どうして？なぜ？と踏み込んだ検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等の学ぶ機会を持ち、申し送り等で職員連携を取り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や青年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要性のある時は関係者と話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、十分な説明を家族にさせて頂き、理解・納得して頂く様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見・要望があった場合は、その都度、対応させて頂き苦情や不満が出た時は納得して頂ける様説明させて頂いている。苦情・相談は随時受け付けている。	長期入院後の要望や、職員の異動に関し意見が出たので、体制作りを努めている。運営推進会議を兼ねてバーベキュー大会を開催し、会議に参加出来ない家族からの意見が聞けた。ユニットを変えたいという家族の要望に応え、何度か試みたが混乱があつて元通りにして落ち着いたという例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の受け入れ等は、スタッフと話し合いの場を持ち、意見を聞き入れたりしている。人事に関しては、本社に任せてある。	1か月に1度のミーティング、2～3か月に一度の代表を含めたミーティングの中で聞くようにしている。居室担当者が利用者を10名ずつ記録。主任、ケアマネよりアドバイス。主任以上の会議に、一般職員も参加し、定例会を開催し、DVDに落とし各ホームに置いている。スタッフよりキッチンに入る時、エプロン、履物を変えるという提案があり、早速実行に移した。	

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者はスタッフミーティングに参加して、個々の状況を把握している。スタッフの意見や提案を直接聞いて頂ける場でもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にスタッフが積極的に参加できるようになっている。また、3ヶ月に一度講師を招いて、さまざまな内容の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催している連絡会議など参加し、同業者との交流、ネットワークづくり、意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の現状希望等を把握する為、1対1で話が出されるようにして、話された内容をアセスメント様式に記入し、個別支援計画を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	玄関に意見箱を設置し、気軽に意見を出して頂ける様になっている。また、面会時に時間を作って話したり、電話で話したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にあったサービスができる様、家族に相談をしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食事をしたり、支え合う関係を築く為、洗濯物干しやたみ、食器洗いをして頂き、暮らしを共にする同士の関係を築いている。常に人生の先輩として配慮させて頂いている。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より連絡の機会をもち、その都度家族へ相談・報告を行っている。一泊旅行などのレクリエーションに参加して頂ける様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に面会に行き、病院関係者に状況を確認して、早期退院できるようにしている。	東京出身の利用者に、柴又、東京ドームに個人レクとして外出支援を行った。友人の面会や電話の取り次ぎは家族の了解を得ている。家族の協力で外出する利用者もいる。わらじ作りが得意な利用者には、ビニールひもを利用してわらじを作ってもらい、夏祭りに職員が履いている。デイや他のホームではわらじ作りの講師として出向いたいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションがとれるよう職員が輪に入り支え、一人が孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になってしまった家族でも、気軽に相談などできるよう、関係を断ち切らない付き合いをしている。又、いつでも立ち寄って頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の話をしっかり聞き、本人の希望意向を把握できるよう努め、意思表示が困難な方にはその人らしい生活ができるよう支援している。	認知度で決めるのではなく、話や思いの意向を聞き流さないようにしている。職員の思いではなく、何を伝えたいかきちっと聞けるように努めている「分かった、後でね」の言葉はタブーとしている。	-2
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全スタッフが利用者一人一人の特徴を理解し、生活歴を把握し、その方にあった生活ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースファイル、申し送り帳を活用して現状の把握に努めている。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れ生活できるよう、必要な時は医師、看護師、栄養士に相談し、モニタリングとアセスメントをスタッフ全員で行い介護計画を作成している。	アセスメントにセンター方式の一部を使い、全スタッフでサービス担当者会議を開催し、利用者、家族の要望を聞き、ケアマネジャーがプランを作成している。モニタリングも職員全員で行い、ケアプラン作成には全職員が関わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気がついた事をケースファイルや申し送りに記入し情報を共有して介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の介護度に応じた対応をする為、当事業所は、グループホーム、有料老人ホーム、介護付き住宅の3つの施設がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、地域資源を把握し支援している。小・中学校に学習の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望を確認し、医療機関に受診している。	内科、精神科、歯科の往診で、利用者の健康管理をしている。かかりつけ医への受診支援も職員付き添いで行っている。受診後は家族に電話連絡をして通院記録に残し、職員は共有している。家族付き添いの場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や通院時に相談し、往診以外にも看護師が利用者の健康管理に来ている。特変があった時はすぐ連絡がつくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、病院関係者に状況を確認して、早期退院できるようにしている。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは原則的に行わないが、終末期に向け職員がしっかり対応できるようにナースを交えてカンファレンスを行っている。家族の要望をケアプランに組み入れ、最善の方法を取り入れる。	契約時に、ホームとしての方針を説明し同意を得ている。医師と相談して早めの入院となることが多い。訪問看護と連携を取り、電話で相談やアドバイスを受ける体制になっているため、状態の変化を早めに気付くことができるようになった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回スタッフは消防署にて救命救急講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、災害が起きた時に迅速な対応ができるようにしている。また、非常食の常備を行っている。	昨年の震災ではライフラインがストップしホールにて対応。備蓄品は本部から提供があり、職員もホームに宿泊した。震災後はミーティングを行い、自己完結できる備蓄品の確保について検討した。災害伝言ダイヤルの活用を考えている。推進会議でも議題とし、地域協力依頼をした。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを忘れず声掛けや言葉遣いに十分配慮し、感情言葉ではなく事実言葉で話し、対応している。個人情報には鍵付きのロッカーで管理している。	個人情報に関する説明をし、写真も含めて同意書を取り交わしている。面会簿は個別に記入しファイリングしている。言葉かけについては、感情的にならず、冷静な言葉使いに注意している。利用者スタッフの関係がうまくいっていると思う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見意識を尊重し、信頼関係を築き、本人に決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大事にし、食事の時間などを決めず対応している。イベントや外出の希望があった時は、希望通りになるよう計画をたてて実行している。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自身の好みに応じて更衣を行っている。移動理容室を利用でき、本人希望の散髪が出来るようになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物など好みを取り入れた献立を作成し、季節に合った食事を提供している。	ユニット毎に献立が違い、それぞれ利用者と一緒に買い出しをしている。系列ホームのメニューを参考にしながら作る。調理は職員だが、野菜の皮むきや下ごしらえは手伝ってもらう。外食では釜めしを楽しむこともある。おやつは定期的買いに行き、利用者と一緒に選んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力での栄養摂取が困難な方も医師から処方された栄養剤を摂取して頂き、栄養を確保している。水分摂取は利用者の好みに応じ提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、自力でできない方にはスタッフが介助を行い清潔保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の習慣を活かして、状況に合わせて自立にむけた支援を行っている。毎日行う事により、排泄のパターンを把握し支援を行っている。	排泄パターンを把握し、誘導してトイレでの排泄支援に努めている。自尊心を傷つけないような支援に心がけている。それぞれの誘導のタイミングを見逃さないように注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に補給して頂くことと、軽い運動をして頂いたりしている。また、食物繊維を多く含んだ食事を提供している。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に合わせ、好きな時に入浴して頂いている。入浴の際、本人の体調に合わせて温度調節し、入浴を楽しんで頂ける様支援している。	基本的に2日に1回入浴しているが、不衛生にならないように努めている。体調に合わせて、清拭対応の時もあり、利用者に合わせてスタッフが対応している。拒否者には声掛けの工夫、スタッフとの関係作りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣やその日の体調など、日々の状況に応じた対応をしている。寝具は定期的に天日干しし清潔にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容を理解し、医師の指示のもと指示通り服薬して頂ける様支援している。変更があった際は全スタッフ状況報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好品、楽しみごと、気分転換などの支援を行い、レクリエーションなど張り合いのある生活が送れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂ける様、毎朝屋外でのラジオ体操や散歩、ドライブ、外食等、外へ出る機会を設け気分転換できるよう支援している。	お茶飲みや夕涼み、ゴミ捨てに出掛けたり、近隣の系列ホームの利用者との交流会に出掛けている。買い物の順番には注意している。外出レクで月1~2回弁当を持って出掛けたり、外食を楽しむ事もある。年1回の一泊旅行も楽しみの一つで、緊急時に備えて看護師が同行する。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族と相談し自己管理が出来ない方でもスタッフの見守りにてお金の取り出し買い物が出来るように支援している。家族にはいくら使ったか明確にする為レシートを添付して報告している。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人が利用したい時に、その都度利用して頂いている。家族からも積極的に行って頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様な共用空間づくりをし、居心地がよく過ごせるよう努めている。	リビングには畳コーナーがあり、冬場はコタツでゆったり過ごすこともある。利用者の趣味で作ったわらじや絵画が飾っており、みんなの励みとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファやテーブルを置いて、利用者同士思い思いに過ごして頂けるような空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個性や希望に応じた居室作りの為に、自身の使用していた家具などを持ち込んで頂いている。	テレビや好みの椅子、曾孫の写真が飾っており、それぞれがおち着ける空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、全体に手すりがついている。トイレ・お風呂などは、わかりやすい様表示している。清潔を心掛け誤認、錯覚をおこすような物は置かないようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域、施設間での情報交換の点ではまだまだ欠けている	近隣の小学校への交流を深め以前には行っていて職場体験や見学等の受け入れをしていきたい。	近くの宍倉小学校へアプローチを行い施設として取り組みたい事を説明し相互での交流が図れるようにして行く。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。